

文部科学省認定「目指せスペシャリスト事業」への取り組み

岐阜県立岐阜商業高等学校教諭 山内 志文

<http://www.kengisho.ed.jp/>

1. 研究課題とこれまでの取り組み

平成 15 年度、文部科学省の「目指せスペシャリスト事業」における研究指定校に選ばれ、その研究指定期間を終えようとしている。

本研究開発課題は、「個に応じたより高度な資格取得を通して、経済・社会の変化に対応できる[生きる力]の育成を目指した商業高校（Super Business High School）の在り方」である。

現在の変化の激しい経済・社会環境の中、様々な変化に対応できるスペシャリストの育成を目指して、高校生という早期の段階において、高度な資格取得を通しての専門教育を実施する。それにより、ビジネス的なものの見方や創造性、独創性を育み、各ビジネス分野において将来リーダーシップを発揮する

知的資本の形成を目指すものである。具体的には、次の4点を研究のねらいとする。

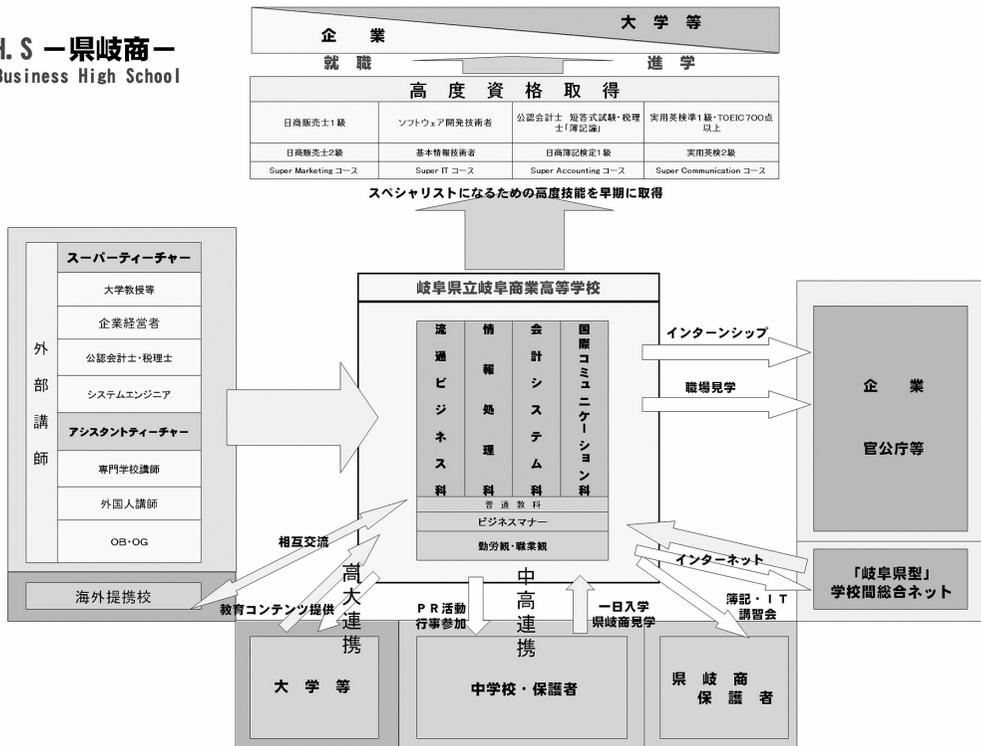
- I 高度な資格取得を通じた専門性の深化
- II 望ましい職業観・勤労観の育成
- III 中・高・大等連携体制のあり方についての模索
- IV 生涯学習の基礎的な資質の育成

高度な資格とは、日商販売士検定1級、経産省ソフトウェア開発技術者試験、税理士科目、日商簿記検定1級、TOEIC700点以上などである。

前述の研究のねらいを実現するための研究内容・方法は、次の7項目である。

- ① より高度な資格取得を達成目標とするコースの設置
- ② 県岐商ビジネス塾の創設
- ③ 企業・官公庁との連携

S. B. H. S ー 県岐商 ー Super Business High School



研究開発イメージ図

- ④ 「岐阜県型」学校間総合ネットの活用
- ⑤ 高・大学等連携
- ⑥ 中・高等学校連携
- ⑦ 本校保護者との連携

以下に、その具体的な取り組みを一部紹介する。

① より高度な資格取得を達成目標とするコースの設置

各学科にコースを設置し、より高い達成目標資格を設定した。このような専門のコースを設置することで現存の教育資産を活用し、より高度な資格取得に取り組むことが可能になった。

- 流通ビジネス科… Super Marketing コース
- 情報処理科…………… Super IT コース
- 会計システム科… Super Accounting コース
- 国際コミュニケーション科
… Super Communication コース

なお、目標とする資格は前述のとおりである。

② 県岐商ビジネス塾の創設

より高度な資格取得を達成するために、学校の教職員に加えて、優れた指導内容・方法を有した指導者の招へいを図る。大学教授、講師、公認会計士、システムエンジニア等を「スーパーティーチャー」、専門学校講師等を「アシスタントティーチャー」と位置づけ、積極的に招へいし、講義を展開した。

[講義内容]

- ・日商販売士2・3級対策講座
- ・ソフトウェア開発技術者試験対策講座
- ・基本情報技術者試験対策講座
- ・日商簿記1・2級対策講座
- ・TOEIC 対策講座 など

このような「外部人材バンク」を構築し、外部講師の招へいを年間指導計画に組み入れることで、生徒に最新の学問・技術を提供でき、また、高度な資



格取得への動機付けによって、授業内容の高度化を図ることができた。

③ 企業・官公庁との連携

情報処理科においては、運営指導委員（後述）の先生のご指導により、情報関連以外の企業を含め、企業見学を実施した。3社をグループごとに分かれて見学するという方法で実施した。実際の現場で、どのように情報機器が利用されているかを見聞きすることにより、今後の情報教育や職業観の育成などに役立てたいというねらいで始めたものである。



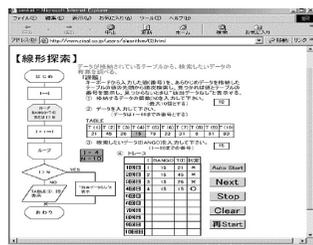
会計システム科では、公認会計士の業務内容を知るために、大手監査法人を訪問・見学し、公認会計士の業務内容についての理解を深めた。

実際に職場の雰囲気に触れたことで、ビジネスマナーの大切さにも気づいたようであった。



④ 「岐阜県型」学校間総合ネットの活用

授業改善を目的とし、Webに公開されている、岐阜県教育用コンテンツ開発事業で開発された、商業や情報に関するデジタルコンテンツを授業に活用した。



教育用コンテンツ

⑤ 運営指導委員会からの指導、助言

このような取り組みについて、指導・助言を頂く目的で、「運営指導委員会」を組織した。学科ごとの研究分野である「流通ビジネス分野」「簿記会計分野」「経営情報分野」「国際経済分野」での学識経

験者をはじめとして、岐阜県の産業の中心を担う方々に委員を務めていただき、年度内に2回委員会を開催し、指導・助言をいただいた。

2. 前述以外の新たな取り組み

運営指導委員会の助言はもとより、自己の反省を踏まえ、当研究開発課題の達成に向け、その取り組みを継続している。

新たな取り組みについて以下に紹介する。

○国際情報科学芸術アカデミー (<http://www.iamas.ac.jp/>) 教授による「パソコン組み立て講座」

今年度の通常の授業時間帯に組み込み、情報処理科2年生の1クラスを対象にして本講座を実施した。1年次に学習してきたハードウェアに関する基礎的な学習を基に、実際にそのPC内部に触れることによって、より体験的に知識の裏付けがされ、理解を深めることができた。



PC 組み立て講座 (大学生による補助)

○専修大学との TV 会議の実施

専修大学ネットワーク情報学部助教授を招いて、「IP ネットワーク」の講義を実施した。その中で、同大ゼミの学生と本校情報処理科2年生の生徒が、インターネット回線を利用したTV会議を行った。会議は、大学での研究内容や大学生活など質問形式によって行われた。異空間によるコミュニケーションを初めて体験した生徒たちは大変興味を持ち、有意義な場となった。

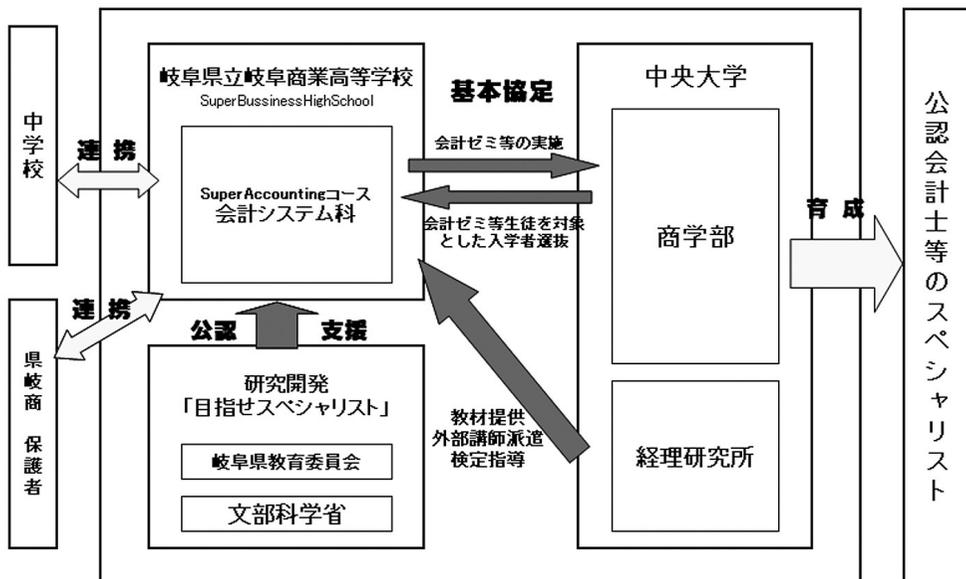


3. 高大接続への取り組み

○豊橋技術科学大学への働きかけ・情報処理科

平成15年6月、それまで工業科の生徒を対象として推薦入試を実施していた国立豊橋技術科学大学に出向き、商業高校もその対象に加えていただきたい旨を申し伝えた。それは、本校での情報処理教育を進めていく中で、地元の国立大学で情報技術をさ

SuperAccountingコース高大連携プログラム 「目指せスペシャリスト事業」



連携イメージ図

らに学びたいという生徒からの強い希望を受けてのものだった。最初に対応していただいたのは、教務部の入試担当者であった。伝えた内容は、本校情報処理科の学習内容や資格取得への取り組みとその成果である。特に経済産業省情報処理技術者試験での成果、情報処理科生徒の大学進学への強い意志、将来のビジョンを強く訴えた。

しかし、この時は前向きな検討をしていただける回答は得られなかった。特に入試に関する内容については、すぐに変更できるものではないとのことであった。

次に知識情報工学系のK助教授とお会いした。そこでは、「目指セスペシャリスト事業」における本校への出張講座の依頼をした。K助教授は商業高校生に対しての評価も高く、出張講座に関しても快諾していただいた。

3か月後、大学から先日依頼内容を要望書という形で正式に提出するようとの連絡を受け、直ちに提出した。また、11月には念願の出張講座が実現した。K助教授による「著作権」についてであった。ゼミ形式で、各グループによる調べ学習、およびプレゼンテーションを行ったが、生徒からも楽しく学べたという感想が寄せられた。K助教授も実際に本校の校風や生徒に触れ、好印象をもっていただくことができた。

平成16年6月に朗報が入った。平成17年度の推薦入試（知識情報工学系）より、「高等学校（商業に関する学科）の情報処理科を卒業見込みの者で…」という文言が追加され、商業高校の生徒にも、受験機会が与えられた。これには、K助教授の働きかけによるものが大きかったと考えられる。

それを受けて、同大学に強く進学希望をしていた生徒に対して受験指導を開始し、見事に商業科生徒として初めてその門をくぐることとなった。

入学後の学習状況は大変素晴らしく、前期は教養科目中心の学習内容で、専門高校出身者は不利と思われたが、本人の頑張りでも成績上位を占めているとのことである。学長および系長からも本校生徒に対して良い評価をいただいている。

本校情報処理科の学習内容を将来的に活かし、その専門性を深化させ、今日の情報化社会に有為な人材となりうるべく、「学びの連続性」を実現するという観点から、今後このような取り組みは続けていきたいと考えている。

○中央大学商学部との高大接続プログラム・会計システム科

(1) 岐阜アカウンティングプログラムの概要

平成13年度から5年間、中央大学商学部と簿記会計教育において「高大接続プログラム（岐阜アカウンティングプログラム）」を提携した。

日商簿記1級あるいは全経簿記上級合格者で、評定平均4.3以上（3年生前期まで）と学校長の推薦があり、将来公認会計士を志望し、中央大学への進学を希望する者が、大学が実施する「会計ゼミ」を受講する。その会計ゼミの成績と面接試験とで大学への合否が判定される。これら「会計ゼミ」は大学入学後、「高等簿記論Ⅰ」2単位として認定される（p.7 連携イメージ図参照）。

また、「会計ゼミ」受講生は、商学部とは別に、公認会計士を養成する専門機関である、中央大学経理研究所より出前授業や教材の提供を受ける。昨年は8人の生徒が当プログラムを利用し、進学した。

(2) 中央大学経理研究所との連携について

経理研究所とは、まず、日商簿記検定1級の合格を目指す生徒のための連携と、それに合格し、将来公認会計士を目指す生徒のための連携がもたれている。連携内容は以下のとおりである。

① Web ストリーミング授業の提供

Web ストリーミング授業では、経理研究所の授業が大学のサーバーにアップされており、インターネットを経由して、学校でも自宅でも好きな時間に各自の進度に応じて講座を受講できる。現在は2年生の日商簿記検定1級受験経験者が講座を受講している。本年度からは、公認会計士「財務会計論」講座の提供を受け、日商1級合格者が受講する予定である。



Web ストリーミング受講風景

② 経理研究所主催の会計士合宿への参加

経理研究所が主催する公認会計士向けの合宿に、

中央大学進学希望者8人が、9月初めに2泊3日で参加した。内容は財務会計論の理論ゼミへの参加と計算答練で、大学2年生と合同でゼミに参加した。

この合宿による効果として、公認会計士試験の厳しさを理解するとともに、専門的な学習（財務会計論）へのきっかけがつかめたことがあげられる。実際に学習する生徒（大学生）と情報交換ができ、大学生活への準備となった。



合宿風景

(3) 高大連携の効果

簿記会計を通して高校教育と大学教育が接続することができ、「学びの連続」を確立することができた。「学びの連続」とは、高校時代に日商簿記1級を取得し、大学進学後、高校時代に学習した内容をさらに発展させ、大学在学中に公認会計士や税理士、国税専門官、不動産鑑定士など、簿記会計の知識を基礎とする会計のプロフェッショナルの試験に合格することであると考える。

現在では会計専門大学院（通称アカウンティングスクール）が設立されており、このような専門大学院やビジネススクールに進学し、会計専門職としてのスキルを更に向上させてMBAを取得することができる。そして、最終的には社会人として、監査法人へ就職したり、企業内会計士や税理士として活躍したり、CFOに就任したりと、財務会計のプロフェッショナルとして企業で活躍していく。このように「簿記会計」を基礎に将来にわたって学び続ける姿勢を確立することが可能となる。

4. 本事業の評価と今後の取り組み

本年度現在（平成18年1月10日）までの資格取得状況については、経済産業省ソフトウェア開発技術者試験 [14名]、基本情報技術者試験 [34名]、税理士試験「簿記論」 [15名]、日商簿記検定1級

[17名]、全経簿記検定上級 [4名] である（販売士検定1級は2月受験）。

また、平成17年度公認会計士2次試験に、本校を卒業し中央大学商学部へ進学した4名が合格した。合格者の内訳は、5年生（卒業を延期）が1名、2年生から4年生までが各1名である。2年生は最年少合格である。

4名すべてが、高校時代に日商簿記検定1級に合格した生徒である。高校時代に、簿記・原価計算の基礎、および応用を学習し、進路決定後の数か月間、大学の公認会計士試験のカリキュラムを取り入れ、「学びの連続」を確立したからこそその早期の合格であると考えられる。

上級生2人は、既に大手の監査法人への就職が決まっている。在学生2名は今後、外国語等のスキルの向上を目指すと共に、後輩の育成にあたる予定である。現在12名の者が公認会計士を目指し同大学で学習している。来年以降の活躍が期待される。

このように、この事業を通してその分野を学んだ生徒が、上級学校に進学あるいは卒業後、どのようにその専門性を深化させ、経済・社会の変化に対応できる有為な人材となっているのかを継続して検証していく必要があると考える。

最後に、このような貴重な紙面に掲載していただいたことに深く感謝申し上げます。

「ビジネス基礎」「総合実践」「課題研究」
「商品と流通」「マーケティング」
の授業に最適なシミュレーションソフト

ビジネスゲーム **コンピニ経営**

定価:12,600円 (CD-ROM 1枚+ユーザーズガイド)
追加ライセンス:5,250円
ワークブック:400円

スクールパック:269,850円
(校内台数無制限)

- ◇**起業家育成に**
経営者になって出店計画・店舗内設計から在庫管理まで体験できます。
 - ◇**イメージしやすい**
店内の一日をアニメーションソフトでシミュレート。来客数と売上高の推移がわかります。
 - ◇**仮説と検証の繰り返しで問題解決**
一日ごとの営業成績をグラフで提示。「ヒント」や「アドバイス」を参考に、翌日の営業に向けて商品保有数・借入・パート管理などを変更できます。
- ※実教Webページよりデモ版と指導資料がダウンロードできます。